

関係者各位



Eyal Segal, Deluge #2, Oil on canvas, 150x150 cm, 2023

展覧会名： **DELUGE** – 大洪水 –

作家名： Eyal Segal エイヤル・セーガル

会期：2025年4月11日（金）～5月10日（土）

営業時間：火-土 11:00-18:00

休廊日：日・月・祝 ※ただし、5/3（土祝）は営業

○オープニングレセプション：
2025年4月11日（金）16:00-19:00

イスラエルのアーティスト、エイヤル・セーガルによる個展「DELUGE」を開催いたします。本展は、2018年に日本での初個展「GROUND LEVEL」を開催して以来、7年ぶりのLOKO GALLERYでの展示となります。

セーガルは1982年、イスラエルのアラド生まれ。ドイツとインドのルーツを持ち、テルアビブのシェンカー工科芸術デザイン大学で学び、かつ、著名なビデオアーティストシガリット・ランダウのスタジオディレクターを務めていました。

本展では、映像作品を含むミクストメディア・インсталレーションを展示します。中でも代表作「LEVIATHAN」(2021)は、埼玉県春日部の首都圏外郭放水路(洪水調節池)で撮影され、2023年のテルアビブ・ビエンナーレでも紹介されるなど、国際的に高い評価を得ています。さらに、最新の映像作品と、大・小ささまざまなサイズの海を描いた新作絵画シリーズ「DELUGE」も展示します。

「DELUGE」というタイトルは「大洪水」という概念に由来します。映像では、セーガルがフィールドを円を描くように歩き回り、その姿は祈りにも似ています。運命の流れの中で彷徨いながら、迫り来る災厄を避けようとするかのようです。

この作品が公開されたちょうど1か月後の2023年10月7日、世界は衝撃的なテロ事件「アル・アクサの洪水」を目の当たりにしました。作家自身も予期しなかった偶然が、この作品に新たな意味を与えています。

また、同時に展示される不確実性を暗示する海の絵画と併せ、本展は鑑賞者にそのテーマを様々な角度から解釈するよう促します。この機会にぜひご高覧いただければ幸いです。

関係者各位

アーティストステートメント

大洪水 (DELUGE) \ エイヤル・セガル

展示とは、一瞬を創り出すこと。時間の流れを緩やかにし、作品が物理的な形を超えて響き合う空間を生み出すこと。それは単なる作品の集合ではなく、一時的な星座のような存在であり、展示されたもの、それを取り囲む空間、そこに集う人々との対話の場でもあります。

今日、世界は内外ともに不安定さを増し、私たちはかつてないほどの不確実性や脆さを意識せざるを得なくなっています。グローバルな風景は劇的に変化し、開かれた世界から閉じた国家主義的な傾向へと向かっています。戦争や長期化する紛争が日常の風景となり、世界の安全が揺らぐたび、私たちはその危うさを思い知らされます。歴史的に激動の時代を経験してきたイスラエルにおいて、これらの課題は特に切実です。こうした背景の中で、展示という行為は単なる政治的主張ではなく、「時間」「空間」「知覚」という観点から、不確実な時代における新しい存在の意味を導きだす機会となります。

本展の作品群は、「動き」「水」「時間」という循環を中心に展開されます。

中心となる映像作品 *LEVIATHAN* は、日本の地下洪水調整施設（埼玉県春日部・首都圏外郭放水路）を舞台にした三部構成の作品です。3つの章、3日間にわたり、「逃避」「生存」「予兆」の状態を巡ります。地下深くを駆け巡るアーティストの姿は、孤独に呑み込まれ、意識の深層で同じ行為を繰り返す存在のように映ります。本作の軸となるのは、旧約聖書の預言者ヨナの物語。巨大な建築空間は、逃避を可能にしながらも安息を与えない「墓」あるいは「胎内」として立ち現れます。

映像作品 *DELUGE* では、周り続ける人物の姿が捉えられています。その動きは無限でありながらも制約されており、時の流れを測るようでいて掴みどころがないものとなっています。作曲家イツハク・シュシャンによる音響は、この停滞しながらも進行する感覚をさらに際立たせます。円というモチーフは、時計、儀式、そして変化や回帰、期待を統べる無言の法則を想起させます。

これらの映像作品に加え、大小の絵画作品が展示されます。そこに描かれるのは、波が織りなす「海の断片」。人の姿のない、半具象・半抽象の海景は、現実の記録ではなく、可能性の表現です。それは、「存在」と「不在」、そして「未来の不確かさ」について思索するための入り口となります。

日本の概念である「間(ま)」には、単なる空虚ではなく、深い意味を持つ「間(ま)」が宿ります。それは、時と時の狭間、知覚が変化し、変容が生まれる場。

展覧会もまた、「間」の静かなギャップを体現するものです。作品と作品の間、鑑賞者と作品の間、過去と現在、そしてまだ見ぬ未来の間——そこに生まれる静寂のリズム、語られぬもの、そして啓示されることへの期待についても重要です。

展示とは、儚い存在の証明でもあります。インスタレーションは一時的に姿を現し、やがて消え去る。しかし、その刹那の中に、新たな空間が生まれます。鑑賞者は、日常の奔流から一歩離れ、異なる時間の流れに身を委ねるのです。それは、過去と未来の狭間に身を置き、残されたものの意味を問いかける瞬間でもあります。

大小さまざまな「海の断片」を描いた絵画作品群は、半抽象と半具象が交錯する視覚的対比を生み出します。そこには人の姿ではなく、波の揺らぎが感情の波にも重なり合います。大洪水の到来を問いかけながらも、同時に心の内に渦巻く混沌を映し出し、混乱の中で意味を探し求める人間の姿と呼応します。そして、私たちは不確実性に直面しながらも、共に脆く、そして強く生きる存在であることを再認識するのです。

関係者各位

アーティスト CV

Eyal Segal エイヤル・セガル

1982年、イスラエルのアラド生まれ。テルアビブ・ヤッファ在住。

主な展覧会・プロジェクト

- 2025年 個展「DELUGE」LOKO GALLERY（東京、日本）
- 2024年 「Gjon Mili 国際ビデオアートフェスティバル」Gjon Mili ミュージアム（コルチャ、アルバニア）
- 2023年 「What Is the Measure of Man?」第2回テルアビブエンナーレ、MUSA、エレツ・イスラエル博物館（テルアビブ、イスラエル）
キュレーターズ：T. Sapir, N. Haramat, H. Eliezer Brunner
- 2022年 RAKFAF22「Longing Be-longing」第10回ラース・アル・カイマ・ファインアートフェスティバル（アラブ首長国連邦）
キュレーター：Sharon Toval
- 2021年 ビデオインスタレーション「A-Ganre フェスティバル」TMUNAシアター（テルアビブ、イスラエル）
キュレーターズ：Nitzan Cohen, Erez Maayan Shalev
- 2021年 個展「LINE IN THE SAND」THE LAB プロジェクトスペース（テルアビブ、イスラエル）キュレーター：Sharon Toval
- 2021年 RAKFAF21「hope」第9回ラース・アル・カイマ・ファインアートフェスティバル（アラブ首長国連邦）キュレーター：Sharon Toval
- 2020年 「Art of Sustainability」グループグローバル3000の50周年展（ベルリン、ドイツ）
- 2020年 「On Art ビデオフェスティバル」Zaczarowany ogród（ワルシャワ、ポーランド）
- 2020年 個展「LEVIATHAN」Schechter Gallery（テルアビブ、イスラエル）キュレーター：Shira Friedman
- 2019年 「Abs.: Kunstort ELEVEN Artspace」ロイトリンゲン美術館（ドイツ）キュレーターズ：Monika Golla, Frank Fierke
- 2019年 「The Spirit of the Poet」Zentrum für verfolgte Künste |Center for Persecuted Arts（ゾーリングен、ドイツ）キュレーター：Jürgen Kaumkötter
- 2019年 「MR.MOV2 ビデオアートフェスティバル」（ブレシア、イタリア）
- 2018年 「Video Art Miden フェスティバル」（カラマタ、ギリシャ）キュレーターズ：Gioula Papadopoulou, Margarita Stavraki
- 2018年 「70.70.70 – Israeli Art in Santa Barbara」SBCAST（サンタバーバラ、アメリカ）キュレーター：Sagi Refael
- 2018年 個展「GROUND LEVEL」LOKO GALLERY（東京、日本）
- 2017年 「AVAF」アディスピデオアートフェスティバル、第2回国際ビデオアートフェスティバル（アディスアババ、エチオピア）
- 2017年 「Citizens」ペタフ・ティクヴァ美術館（ペタフ・ティクヴァ、イスラエル）キュレーター：Neta Gal-Azmon
- 2017年 「Arad: From Vision to Delusion – Chapter 1」アラッド現代アートセンター（アラッド、イスラエル）
- 2016年 「VORORT 2 draußen」国際アーティストシンポジウム（スター・ザッハ=ベルルシュティング、ドイツ）
- 2016年 「FAÇADE VIDEO FESTIVAL」現代アートセンター・プロフディフ、古代浴場（ブルガリア）
- 2016年 「(Dis)Place」アシュドッド美術館（アシュドッド、イスラエル）キュレーターズ：Yuval Beaton and Roni Cohen-Binyamini
- 2015年 「Screening Project: Dongshi Sangyoung」ジュジュベ・アーティストスタジオ（ソウル、韓国）キュレーター：Jeongeun Kim
- 2015年 個展「Release: Return」FUGA ブダペスト建築センター（ブダペスト、ハンガリー）キュレーター：Lili Boros
- 2015年 「Waterscapes: The Politics of Water」ポハン鋼鉄美術館（ポハン、韓国）キュレーター：Hyewon Lee
- 2014年 「Waterscapes: The Politics of Water」クムホ美術館（ソウル、韓国）キュレーター：Hyewon Lee
- 2014年 「VIDEOHOLICA 7」ヴァルナ（ブルガリア）キュレーターズ：Iara Boubnova, Antonio Geusa, Leung Mee-ping, Jason Waite
- 2013年 「Quarantine」ハンセンセンター（エルサレム、イスラエル）キュレーター：Neta Gal-Azmon
- 2013年 個展「Falling into Place」ネゲヴ美術館（ビアシェバ、イスラエル）キュレーター：Dr. Dalia Manor

受賞歴

- 2022年 「ハンブルク映画賞フェスティバル」最優秀実験映画賞（ハンブルク、ドイツ）
- 2021年 「WILD OUT VIDEO FESTIVAL」今年度の最優秀ビデオ賞「LEVIATHAN」（台北、台湾）
- 2021年 「ワールド・フィルム・カーニバル–シンガポール（WFCS）」第22シーズン・優秀業績賞
- 2020年 「On Art ビデオフェスティバル」最優秀ビデオアート賞（第2位）「Sand Timer」（ポーランド）
- 2016年 「FAÇADE Video Festival」トップ10選出ビデオ作品、現代アートセンター（プロフディフ、ブルガリア）
- 2009年 「イツハク・ラビンセンター–シェンカープロジェクト」14回目の追悼日における最優秀ポスター

eyalsegal.com



関係者各位



Eyal Segal, Still Frame from 'LEVIATHAN', 2020,
HD-Video Performance, 25' 00

